

小学生を対象にした「地域の安全安心マップコンテスト」の成果と課題

村中 亮夫*・大槻 知史*・吉越 昭久**

I. はじめに

地理情報の伝達・提供の手段には文章やグラフ、地図、写真などがあるが、中でも地図は空間情報の伝達や表現という点で最も優れた手段であると言える。防災・防犯情報の提供においても地図による情報伝達は情報の受け手に理解されやすく、自然・人為的災害の危険情報の提供においてもハザードマップや犯罪マップなどの地図がしばしば活用されている¹⁾。近年では、地理情報システム (GIS: geographic information systems) に関わる情報処理技術も進展し、災害や犯罪の危険性をデジタル情報としてインターネットで配信する取り組みも見られるようになった²⁾。

一方で、地域住民が一方的な情報の受け手になるのではなく、地域住民が地域調査を行い、独自の地図を作成する取り組みも行なわれている³⁾。地図の作成作業からは、情報収集の段階で現地を歩き身近な地域を観察することで、自然災害発生時の避難経路や犯罪危険性の高い場所について効果的に理解を深められる⁴⁾。近年、こうした取り組みの一種として、小学校単位での防犯マップの作成や、各機関が主催する防災や防犯、交通安全に関するマップコンテストが実施されている⁵⁾。

現在、立命館大学歴史都市防災研究センターでは文部科学省学術フロンティア推進事業や科学研究費補助金などの競争的研究資金をもとに、文化遺産防災を核とした歴史都市の安全安心に関わる学術研究が推進されている。また、当センターは民間企業や政府・自治体、国際機関との緊密な連携のもとに、文化遺産防災の研究のみならず、地域の防災力・防犯力の向上に資する活動を積極的に展開している。

このような活動の一環で、前述した各機関の取り組みを参考にし、当センターでは2007年度に京都市内の小

学校に通学している小学生に地域の安全安心への関心を深めてもらうことを目的とした「地域の安全安心マップコンテスト」を企画した。本コンテストは、小学生と保護者（ないしは地域の住民）が一緒に地域の安全安心について調べ、マップを作成する過程で地域の安全安心に関心を持ち、地域住民も「子どもの安全安心」について情報の共有を図ることを通じて、地域の防災力・防犯力の向上を促すことを意図している。

本稿では当センターで実施したコンテストの内容を紹介し、その成果と課題を検討することを目的としている。今後、同様の事業を企画立案する際に、事業内容を高度化する資料となろう。

II. 企画概要

1 課題内容

本コンテストでは、身近な地域の安全安心に関する地図を小学生と保護者（地域の方々や小学校の教員を含む）に作成してもらった。地図作成のテーマ設定では、地震などの自然災害発生時の避難経路や避難場所、通学時の交通安全、子どもの遊び場の安全安心、子ども／大人からみたヒヤリハットマップなど、地域の安全安心に関する内容であればテーマは一切問わないこととした。

地図の大きさはA0 (841mm×1189mm) 以内としたが、応募者の作成時の自由度を出来るだけ高めるために、A4用紙やA3用紙などを用いて作成したマップを模造紙にテープで留めた作品や冊子状でまとめた作品も受け付けた。なお、作品の募集にあたり、参考書として小宮信夫著『改訂版地域安全マップ作成マニュアル』（東京法令出版、2005年）を募集要項中で紹介した。

2 実施期間

募集期間は2007年7月20日（金）～9月28日（金）である。作品の募集にあたっては小学生と保護者が十分な時間を持って地図作成に取り組めるよう、募集期間を小学校の夏休み期間とした。また、夏休み期間に作成した

* 立命館大学歴史都市防災研究センター・研究員

** 立命館大学歴史都市防災研究センター・副センター長